

第2回専門部会意見対応表（人口減少緩和策）

資料4-2

No.	委員	意見	対応
1	岡本委員	仕事だけではなく、趣味優先でライフスタイルを選び、ウインタースポーツが好きだから北海道に住んで、オンラインでできる仕事をするのだという人などもこれからは出てくると思うし、もう既にいっしょとも聞いている。先ほどは仕事があるという言い方をしましたけれども、仕事だけではなく、ライフスタイルを優先して、雪のある環境や暑過ぎない環境など、北海道の気候が好きだという人たちも受け入れられるようなまちの実現を目指していく書きぶりがあると人口減少対策になるのではないかなと思う。	ご意見を踏まえて、『戦略ビジョンにおける「人口減少対策」の位置づけ』の「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」に「行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり」の記載を追記します。
2	村木委員	アフターコロナによって暮らしの拠点をどこに置いてもいいというふうに変ってきているので、社会増をもう少し大きく捉えるのであれば、日本全国から人を持ってくるとか、札幌の魅力でいろんなところから人を呼び込んでもいいのかもしれないと思う。	ご意見を踏まえて、『戦略ビジョンにおける「人口減少対策」の位置づけ』の「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」に「行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり」の記載を追記します。
3	山中委員	世界の中で魅力ある都市になるというのが掲げられている。人口対策という意味では、今の若者を残すだけではなく、社会人をたくさん連れてくるような魅力のあるまちをつくろうという文脈で、自分たちがまちをつくることのできるのだ、住民参加のまちなのだとこのところを売り出したほうが人口減少対策にもなると思う。	ご意見を踏まえて、『戦略ビジョンにおける「人口減少対策」の位置づけ』の「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」に「行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり」の記載を追記します。

No.	委員	意見	対応
4	木村委員	<p>人口が減少しています、札幌市にもっと人が集まって消費や価値創造をしましょうと言うときには、若者に繁殖をしてもらいましょうということだけではなくて、関係人口に焦点を当てたほうがいいと思う。</p> <p>移住と観光というのは、多分、今まで別々に施策を立ててきたし、ブランディングもしていたと思うが、観光に来ていいところだなと思ったら、何回も来たいなと思ったら、札幌が地元ではないけれども、Jターン、Iターンをしてみようかなと考えたりすると思う。観光と移住というのは、実は地続きだと思うので、一体的に促進をしたり、ブランディングをしていったらいいのではないかなと思う。</p> <p>少しハイエンドな個人の観光客やスノーリゾートが好きで長期滞在を予定している人などにターゲットを絞って移住と観光の促進をやっていったり、ワーケーションで来てもらって、先々は札幌に事業所をつくってもらえないかという促進活動をしていったりするなど、そういうことが基本目標の2や3の辺りにもう少し入るといいのではないかなと思う。</p>	<p>ご意見を踏まえて、『戦略ビジョンにおける「人口減少対策」の位置づけ』の「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」に「行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり」の記載を追記します。</p>
5	中田委員	<p>人口減少対策は、やってすぐに結果に結びつくことはなかなかないような気がしている。だからといって、今、書かれていることをやらないということにはならないと思うが、それだったら、長期定住人口を増やす方法を考えていったほうがいいと思う。</p> <p>例えば、国際機関を一つでも誘致すれば、いろんな方が長期的に定住してくれるし、あるいは、これだけいろいろな大学があるわけですから、国際的な研究機関をきちんとつくることによって長期的に研究に携わる人たちに住んでいただけると感じる。</p> <p>また、今、コロナ禍だからなのか、首都圏に本社を持っている会社が創業地に結構戻ってきているということがあって、調べたら、そういう会社が351社あるらしいのですが、ほぼ1割の30社ぐらいを超える企業が創業地に戻ってきている。ですから、そういった契機を捉えて、そこにもっと力を注いで人口を増やすことも必要ではないかなと感じている。</p>	<p>ご意見を踏まえ、主な対象は企業となりますが、それ以外の団体等も視野に入れ、「主な施策」の「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」に「企業等の誘致」と記載します。</p>

No.	委員	意見	対応
6	高橋委員	もちろん産業があって、そこに多くの人が集まってくることも期待したいところだが、もう一つの方向性として、働き方に魅力を感じるとか、ワーク・ライフ・バランスを大事にするまちであるとか、子育てがしやすいということ価値として置いて、それが本当に実現されているまちにするというのが一つかなと思う。	ご意見を踏まえ、「主な施策」の「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」に子育て環境の向上に関する記載を追記します。 また、「子ども・若者」分野の基本目標1「安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち」の目指す姿1に「社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。また、子育てする人同士の交流も進んでいます。」を、目指す姿3に「ワーク・ライフ・バランスが広く定着し、性別を問わず、働きながら安心して子育てができる環境が整っています。」を掲げております。この実現に向けて、行政が行う施策については、戦略編で定めてまいります。
7	山本（一）委員	地元企業の意識改革をして、子育てがしやすい、子育て世代に優しい企業づくりに取り組んできているところなので、そういう動きが地元の企業の中に出てくると、札幌は働きやすい場所だという考え方が皆さんに伝わっていくのではないかなと思う。 このような活動がたくさん企業の広がっていくと、子育ての世代の方たちに札幌の企業はそういうところをとでも分かっていると感じていただければ、地元に残ってくださるのかなと考える。	ご意見を踏まえ、「主な施策」の「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」に子育て環境の向上に関する記載を追記します。 また、基本目標1「安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち」の目指す姿1に「社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。また、子育てする人同士の交流も進んでいます。」を、目指す姿3に「ワーク・ライフ・バランスが広く定着し、性別を問わず、働きながら安心して子育てができる環境が整っています。」を掲げております。この実現に向けて、行政が行う施策については、戦略編で定めてまいります。
8	木村委員	基本目標2の中で、結婚、出産、子育てと出てくるが、結婚と出産は個人の価値観によるものだから、自治体で事業をつくってやる類いのものではないと思う。子育ては支援をしたほうがいいと思う。日本では、やっぱり法律婚をして夫婦が子どもを持つがマジョリティーだから、子育てを支援すれば、産みたい人は産むだろうし、結婚したい人はすると思う。ですから、子育てだけでよくて、結婚と出産が当たり前ですみたいなことは、この前のビジョン編の多様性が強みのまちですというところと矛盾すると思うので、書かなくてもいいと考える。 そもそも、男女が結婚しないから、子どもを産まないから人口が減っているわけではなくて、人口ボーナス期が終わってオーナス期に入っているからこうなっているだけなので、多分、出会いを促進しても、結婚を促進しても、焼け石に水だと思う。ですから、若者だけではなく、関係人口全体に焦点を当てる方針や基本目標を立てたほうがいいと思う。	令和2年3月に策定した第2期さっぽろ未来創生プランでは、札幌市民の希望出生率は1.65となっているのに対して、実際の合計特殊出生率との乖離があることから、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを進め、社会全体で子育て支援をすることで、結婚や出産を望む市民の希望を実現していきますと記載しております。今回の資料においても、「主な施策」の「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」は、希望出生率と実態との乖離の解消を念頭においた施策であることを明記します。

No.	委員	意見	対応
9	松田委員	<p>呼び込むというところでは、高校生に対して札幌の大学に来ないかというキャンペーンをもっと張ってもいいのではないかと感じている。</p> <p>例えば、受験生の場合の受験生割のように、ホテル代を少し助成するだけでも、受験生が親に札幌の大学を受けたいと言いやすくなると思う。どのタイミングで呼び込むかとなると、大学受験のタイミングが一番いいのではないかと感じている。</p> <p>また、本州で学んだ人が大学院あるいは学び直し、道内の私大のエッジの効いた学部に入ってくるということもある。その後の就職や子育てにおいては、札幌に足場があれば、就職や子育ても心配なくできて、そこからは、札幌に閉じ込められず、デジタルを活用しながら世界に活動の範囲を広げられるというライフサイクルをつくれたらいい。若い世代が東京を夢見ている、実際にできなかったことを札幌で現実にするという一昔前の東京のような存在に札幌がなれば、若い人は絶対に札幌に住みたいと思うに違いないと私は感じているので、それを実現させてあげたいと思う。</p>	<p>ご意見を踏まえて、大学生以外の若者へのアプローチ強化に関する記載を追記します。また、「主な施策」に魅力的な大学づくりに関する記載を追記します。さらに、『戦略ビジョンにおける「人口減少対策」の位置づけ』の「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」に「行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり」の記載を追記します。</p>

No.	委員	意見	対応
10	佐藤委員	<p>今、ここに出ている内容というのは、ほとんど自由に動ける人たちへの対策のように考えられるかと思う。でも、自由に動く前の子どもの頃から札幌はすごく魅力のあるいいまちなのだとことを理解してもらって、外に出ていく気持ちを抑えることが大前提というか、先なのかなというような気がする。</p> <p>動ける人たちを一生懸命抑えたとしても、出ていく人たちがどんどん増えてしまえば、プラスマイナスゼロみたいなことになってしまうので、子どもたちが札幌はすごくいいなと思えるような教育をどこかに盛り込んでいただけるとありがたい。心のバリアフリーのところでは、子どもの教育をすごく出していたのですが、この辺りには子どもの教育については全然出ていないので、少し入ってもいいのかなと感じている。</p>	<p>ご意見を踏まえて、大学生以外の若者へのアプローチ強化に関する記載を追記します。</p>
11	吉岡委員	<p>特に若い世代に向けたアプローチの強化が必要だとなっているが、大学だけではなく、高校生へのアプローチや学びの場づくりなどを検討しているのではないか。</p>	<p>ご意見を踏まえて、大学生以外の若者へのアプローチ強化に関する記載を追記します。</p>
12	梶井部会長	<p>若い世代へ向けたアプローチの強化については、白丸のところに大学との連携とある。スマートのところでも、デジタルということで、理系の高校生や大学生が特化して出ているわけですが、実は、大学進学率というのは50%台で、半分は大学生ではないのですね。そうしたときに、ざっと見ても、札幌市はそれ以外の若者に対して何を期待するのだというところが出ていないので、こっちを前面に出すとこぼれていく子どもたちがいるというところがすごく気がかりだ。</p> <p>また、半分は大学に行かないということだが、その半分の方の地域の定着率が実は高い。大学生は首都圏に出ていくけれども、高卒や中卒の方は、むしろ地元で定着して、そこで結婚して出産するという確率が統計的には高いわけですから、そのような若い人たちにどういうふうアプローチしていくかという意味では、大学以外の専門学校生や中高生に対しても目配りをいただければなと感じたところ。</p>	<p>ご意見を踏まえて、大学生以外の若者へのアプローチ強化に関する記載を追記します。</p>

No.	委員	意見	対応
13	山中委員	<p>私は、最近、道内の高校生とオンラインで話し合う交流会をやっている。北海道の地方の市町村の高校生は自分の地元愛、地元の魅力を語れる。しかし、札幌の高校生は札幌の魅力を語れない。札幌愛がかなり落ちているということ。</p> <p>一方、札幌市立高校は、連合でプレゼンテーション大会を行っていたり、非常に素晴らしい活動をしている。市立高校の総合的な探究の時間の取組が素晴らしい。強いていえば、札幌は大都市ゆえに、自分たちでまちをつくれるといった視点がこの箇所では抜けている。</p> <p>高校生が、自分たちで地元のまちがつかれる、自分たちが地元のことをよく理解できている、ような小中高の取組がこの箇所に書かれるべき。</p> <p>SDGsに関わる教育もそうだが、幼稚園から始まり、高校までその教育をずっとやり続けて、札幌圏の大学がそれに加わって、札幌を中心としたSDGsなり、札幌の地元とは何でしょうといった魅力を理解するような一貫した教育のプランを考えたほうがいいのではないか。</p>	<p>ご意見を踏まえて、大学生以外の若者へのアプローチ強化に関する記載を追記します。</p>
14	山中委員	<p>札幌市は確かに女性が多いが、実は、女性のほうが北海道の地域から流出する。それは大学ではなく、専門学校や就職などの方が多い。ですから、こういう議論をするときに、「20代＝大学生」と考えると、一部分しか見ていないことになるので、ぜひとも専門学校や就職した人たちなどのことも考えていただきたい。</p>	<p>ご意見を踏まえて、大学生以外の若者へのアプローチ強化に関する記載を追記します。</p>
15	定池委員	<p>書いてあることを応援する意味でのコメントになるが、大学との連携はとてもいいと思う。</p> <p>私自身、北海道大学の文学部で学んでいたが、私も含めて、周りは、卒論やプレ卒論の中で地域課題に取り組んでいて、それで行政職員になったり、NPOの職員になったり、大学で学ぶ中でいろいろな方たちとつながって、自分たちもその中で活動したい、活躍したい、地域の一助になりたいという思いを持って就職先を選んでいく人たちがいたので、学生のときに行政と大学が連携して何かに取り組むところに加わるのはとてもいい経験になると思う。そして、それが就職の道の選択にもつながるし、実際の課題解決や将来への人材育成につながるという意味でもとてもいいことだと思う。</p>	<p>賛成ご意見</p>

No.	委員	意見	対応
16	山中委員	ここで挙げられている人口流出について。確かに20代の前半で流出しているので、大学を挙げたのかもしれませんが。ただ、ここで北海道大学と出ていることについて、私は北海道大学の教員ですから北海道大学を取り上げることが個人的にはうれしいが、特定の大学名を出すのには少し違和感を持つところ。	北海道大学は、COI-NEXTの取組があり、高次機能交流拠点でもあることから、より強く連携を図る必要があると考えていますが、その他の大学についても更なる連携を図ってまいりたいと考えております。
17	高橋委員	日本全体が人口減少という課題を抱えているときに、結局、パイを取り合うような形で札幌に人が来てくれるといいというのにはちょっと限界があると思うので、人が流動するという状況を前提に考えてはどうかと思う。道外や世界から札幌に人が戻ってくる、選んで集まってくる、ほかに行って活躍してまた戻ってくるといった流動するまちをもう一つの前提として考えてもいいのではないか。	ご意見を踏まえ、「主な施策」に地元定着や関係人口等に関する記載を追記します。
18	岡本委員	こちらは、大学を卒業してそのまま地元に残ってほしいと読み取れるような書き方になっている。ただ、北海道大学だと半分以上が道外生だが、札幌圏の私大などは、札幌あるいは道内から来ている学生がほとんどなので、長い目で見たときには、一度、道外で社会経験というか、働いてみたり、友達のネットワークを増やしてみたり、いろんな出会いがあったりして、やっぱり北海道はいいな、北海道で仕事がしたいなと戻ってきたときにちゃんと働ける場所があるとか、先ほどもあったスマート系のITの企業など、先端的な働く場につながっていくとするほうが望ましいように思う。そうすると、札幌だけではなくて、北海道全体のよりよいまちにつながっていくのではと思う節もあるし、地元に着のみ注視するのではなく、Uターンなどの際、一緒についてきてくれるUターン組もいると思うので、そういう側面も盛り込んで書いたほうがいい。	ご意見を踏まえ、「主な施策」に地元定着や関係人口等に関する記載を追記します。
19	高野部会長	人口減少の人口というのは、本当に住んでいる人だけの話で、きっと交流人口や関係人口も一つの大きな指標になるはずなので、そういう視点を入れることも重要なと思う。	ご意見を踏まえ、「主な施策」に関係人口等に関する記載を追記します。

No.	委員	意見	対応
20	木村委員	<p>もう一つ違和感があるのは、資料の右側の若い世代へ向けたアプローチの強化のところ。子どもへの性教育は、性の自己決定のために必要なので実施すべき。ただ、妊娠前から体や性への正しい理解を深める取組は、多分、2013年に国会や政府で議論になった女性手帳と考え方が近いのかなと思っています。結局、少子化は女性の意識の問題という指摘を自治体が言っているように捉えられる。</p> <p>子どもが減っているのは社会や政治の責任だと思う。それを自治体で教育しましょうとか、女性手帳を配りましょうと言われると、女性への教育が不足しているから、出生率が低下していると、自治体はそういうふうを考えていると思うから、この資料には違和感があるという指摘をしておく。</p>	<p>「主な施策」に、プレコンセプションケアが、女性だけでなく男性も対象とした取組であることを明記します。</p>
21	佐藤委員	<p>人口減少対策として幾つか出しているが、人口が減るのはある程度仕方のないことなので、その中で減ったことによるデメリットや弊害をどうやって減らすかという観点も大事だと思う。</p>	<p>分野横断的に取り組む施策の人口減少対策については、人口減少の緩和のための取組を取りまとめて記載しております。「人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を生かし持続的に成長していくための取組」については、戦略ビジョン全体の中の施策で取り組んでまいります。</p>
22	大西委員	<p>人口減少ということで、高齢者の方にできる限り長く現役で働いていただくことも重要。中小企業も含めた企業への取組は、恐らく、施策の中に入っていると思うが、いわゆる健康経営のように、従業員の健康を大事にする、あるいは、人材を大切にする企業を増やすことも非常に重要ではないか。</p> <p>健康経営の考え方の中では、たしか、新卒の若い方たちがどういう企業で働きたいかというアンケートにおいて、「人材を大事にする会社への就職を希望する」とか、保護者の方たちも子どもをそういう会社に就職させたいという結果があり、そうしたニーズが高いことから健康経営を推進していくという社会の流れになってきている。若い人にも選んでいただける企業にするためには、企業が取り組んでいる仕事の内容が魅力的であることも重要である一方で、従業員を大事にする企業を増やしていくという視点も重要であると思う。</p>	<p>いただいたご意見については、分野横断的に取り組む施策（ウェルネス）に位置付けて取り組んでまいります。</p>

No.	委員	意見	対応
23	佐藤委員	<p>教育、育てるとか、学びをどうやって実現していくかということが地域でできる対策ではないかと考える。</p> <p>人口が減ったら何がまずいかというと、結局、高付加価値なものを生み出せないことである。今までのように付加価値があまり高くないものを再生産するやり方だと頭数が必要になる。その意味では、クリエイティブな製品やアイデアで付加価値をつけていくような産業が活性化するかどうかだと思うし、それを支えるのは人間の能力や知である。高付加価値を生み出せるような人材をつくっていく、そのためにはやはり教育が大事である。教育といっても学校の教育だけではなく、人が学べるということにもう少し突っ込んで、みんながコストをかけてやってもいいと思う。</p>	<p>いただいたご意見については、分野横断的に取り組む施策（スマート）の「人材育成・産業競争力の強化」に位置付けて取り組んでまいります。</p>
24	大西委員	<p>もう一つは、結婚、出産、子育てのところにに関して。</p> <p>最近の社会環境の背景として、今年の4月から不妊治療が保険適用になっており、初回の治療を開始する43歳未満の方までが対象になっていると思います。今後は、高齢出産の方が増えてくることも推測できるし、また、高齢出産が増えていくと、子どもの染色体異常のような問題もあって、例えば、出生前診断を受けるべきなのかといった悩みを抱える方も増えてくるのではないかと思います。プレコンセプションケアの中にも入るのかもしれないが、そういった不妊治療や出生前診断も含めた相談体制とか、子どもを設けることに不安を感じたり悩みを持ったりしている方へのサポート体制を強化していくことも、具体的に見えるように記載できるとよいのではないかと思います。</p>	<p>いただいたご意見については、子ども・若者分野での記載の追加を検討いたします。</p>

No.	委員	意見	対応
25	椎野委員	<p>個人的な意見というか、感想になってしまうが、私は、2人目の子どもが産まれたときに、札幌市から有料の燃えるごみの袋を10袋分ぐらいもらった。これはほかの市町村が考えられたのかもしれないのだけれども、よく考えたなと思った。赤ちゃんはおむつを頻繁に替えないといけないので、おむつ代はかかるし、おむつを捨てる有料の袋代もかかるのですが、子どもが産まれたからそこをサポートしましょうというのは本当によく考えたなと今でも思っている。</p> <p>何を申し上げたいかというと、ここで掲げている二つの未来創生プランのうちの一つの結婚・出産・子育てを支える環境づくりは、職員の方の中でも、特に、今まさに子育てをリアルタイムでされている若い方を中心に考えていただきたい。子育て環境の施策というのは、昔、自分が体験したときより新しいメニューやプログラムがどんどん出てきているので、ベテランの方というより、今、子育てをしている若い方を中心にタスクフォースをつくるという形でぜひ進めていただきたいという希望を持っている。</p>	<p>市民ニーズを捉えた事業構築ができる体制づくりについて、「行財政運営の方向性」に記載します。</p>
26	柴田委員	<p>何を優先するのかという価値観の順位が変わらないと、社会の仕組みは変わらない。では、どうすればいいのかというと、なかなか答えは出ないのだが、親子など、コミュニティーが自然に集うような場所が一つの新しい文化になっていくとやりやすいのかなと思う。みんなの子どもをみんなで何となく見ているという感じの場所づくりができていくと自然かなという気がした。</p>	<p>いただいたご意見については、子ども・若者分野の基本目標1「安心して子どもを産み育てることができる、子育てに優しいまち」の目指す姿1に「社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。また、子育てする人同士の交流も進んでいます。」を掲げております。</p>